

【 2017ユース世界選手権 】

2017年8月8日～8月20日 ジョージア・トビリシ

試合結果報告 8月9日 (水)

J P N	VS	GEO(ジョージア)
14	前半	9
16	後半	13
30	合計	22

個人得点

名前	前半	後半	7MTC		合計
高光 凌	0	0			0
高野 颯太	1	4			5
末岡 巧美	4	6			10
阿部 奎太	3	2			5
服部 将成	0	0			0
徳田 廉之助	4	2			6
村木 幸輝	1	0			1
山田 翔騎	0	0			0
堀田 陽大	0	0			0
寺島 健太	0	1			1
中村 光	0	0			0
本田 悠也	0	0			0
山本 千尋	0	1			1
川崎 駿	0	0			0
戸井 凱音	1	0			1
					0
					0
					0
合計	14	16	0	0	30

戦評

予選リーグ2戦目はホスト国のジョージア。事前のミーティングやトレーニングで相手の傾向を分析し、対策して臨んだ。出だしはローテンポなゲーム展開。No.3末岡のシュートで先制するも、その後得点が伸び悩む。しかしディフェンスで日本は躍動する。No.2高野、No.3末岡、No.6服部が積極的に体を当てて相手をはじき返し、No.12GK堀田が相手のシュートをことごとくセーブする。マイホールとなるやNo.4阿部を筆頭に人数をかけた1次、2次速攻から次々とシュートを決め、前半13分8対3とゲームの主導権を握る。一気に加速したい日本だったが、激しいホディチェックが裏目にでてしまう。立て続けに退場者を出し、苦しい展開を強いられるもNo.7徳田の連打で前半を14-9で折り返す。後半の出だしは日本が2人退場のディフェンスから始まる。相手のスクイプレーで出鼻をくじかれると、観客の後押しを受けたジョージアに開始5分で3連続失点を浴びる。一気に16-14と2点差まで追い上げられたところでタイムアウト。攻撃のねらい所、ディフェンスの勝負所を確認し、試合再開。ここで日本ベンチが動く。No.9村木に変え、司令塔にNo.10山田を投入。ジョーカー的な役割で攻撃のテンポを変化させる。相手ディフェンスを翻弄し、6mライン際のスペースを作り出すとNo.2高野、No.3末岡らピヴォット勢がシュートを叩き込み再び主導権を握る。ディフェンスではGKをNo.16中村にスイッチ。相手のシュートを立て続けにセーブしチームを盛り上げると、速攻で飛び出したのはNO.9村木、NO.3末岡、No.2高野。次々と相手のディフェンスラインを突破しゴールや2分間退場を量産。後半24分7点差と試合を決めた。次戦のドイツ戦を視野に入れた日本ベンチはここでリザーブメンバーを投入。攻撃ではNo.26山本、No.25川崎、No.11本田守ってはNo.10寺島が残り時間の要所を締めて30-22と更に点差を広げて試合終了。次戦からNo.5部井久ら3名が合流する。攻守の布陣で選択肢を増やしてドイツ戦に臨みたい。

報告記入者 :

吉村 晃